

富山県

# 福岡町上野A遺跡

発掘調査概要

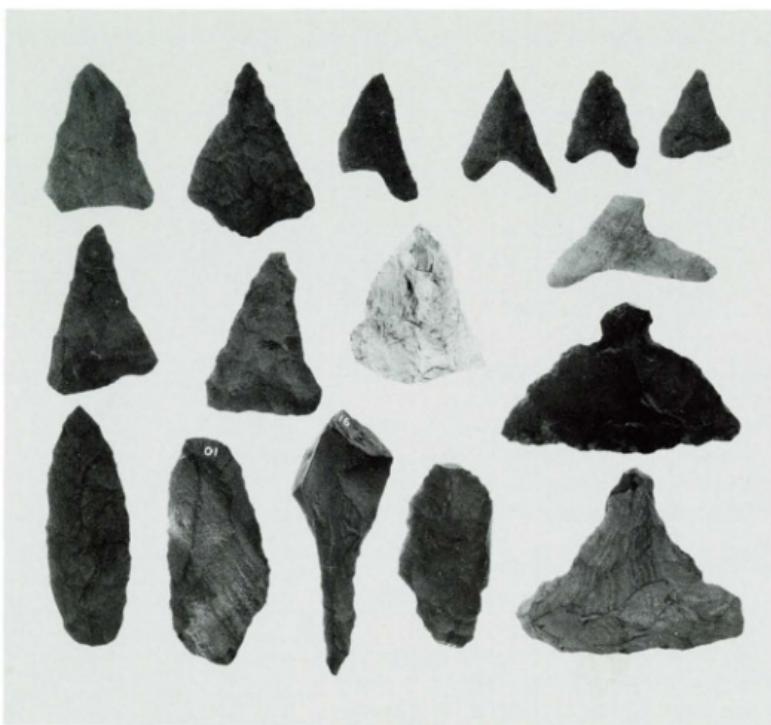


写真1 上：石鏃 右：石匙 下：石槍、ナイフ、石錐（1：1）

1992年3月

福岡町教育委員会

# はじめに

上野A遺跡は、縄文時代の前期と中期、古墳時代、奈良から平安時代の遺跡として知られておりましたが、昭和63年度に、この遺跡の中心部で車庫及び農作業所が建て替えられることになつたため、工事に先立ち発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、およそ5,500年前にさかのばる縄文時代前期の住居跡が発見されるなど大きな成果がありました。

本書は、調査の概要をまとめたものです。この地域の原始・古代の様子を知る上で参考となれば幸いです。

なお、末筆ではありますが、調査にあたってご協力いただいた水口正氏、富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位には厚くお礼申しあげます。

平成4年3月

福岡町教育委員会

## 例　　言　　目　　次

1. 本書は、昭和63年度に実施した個人の車庫及び農作業所の建築に先立つ、上野A遺跡の緊急発掘調査の概要である。
2. 調査は、福岡町教育委員会が実施した。調査にあたっては、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣をうけた。
3. 調査期間は、平成元年1月18日から1月21日までで、調査面積は50m<sup>2</sup>である。遺物整理・概要書の作成は平成元年と平成3年に実施した。
4. 調査参加者・事務担当者は次のとおりである。  
富山県埋蔵文化財センター主任久々忠義・文化財保護主事安金幹倫・島田修一（以上調査担当者）。  
地元 竹田照順・荒屋哲夫・吉国延子・尾崎正和・室田義夫・下村達・中村久枝・日和祐樹・事務局は社会教育課に置き、庶務は課員の協力を得て、社会教育主事川尻光浩が担当し、教育長高橋正一が統括した。
5. 調査にあたっては、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターの指導を得た。また、調査から概要書の作成に至るまで、次の方々や諸機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表したい。  
水口正・邑本順亮（埋蔵文化財センター所長）、斎藤芳恵（町文化財審議委員長）。
6. 概要書の作成は久々が行った。
7. 遺跡の略記号は、町名と遺跡名のそれぞれの頭文字をとって、「FUA」とした。

はじめに	
例　　言	
I 遺跡の環境	
1. 遺跡の立地	.....1
2. 那辺の遺跡	.....1
第1回　遺跡の位置と周辺の遺跡	.....1
II 調査の概要	
1. 調査に至るまで	.....2
2. 発掘調査	.....2
第2回　遺跡の範囲と調査地点	.....2
写真2　調査区近景・全景	.....3
写真3　土層・土器出土状況・調査風景	.....4
III 遺物	
1. 住居跡	.....5
第3回　基本土層と遺構図	.....5
写真4　住居跡	.....6
2. 遺物	.....7
第4回　住居跡とX4Y1区出土土器	.....9
第5回　X4Y1区出土土器	.....10
第6回　X4Y1区・X3Y1区・X4Y3区出土土器	.....11
第7回　X4Y2区出土土器	.....12
第8回　X3Y2区・X2Y1区・X1Y1区出土土器	.....13
第9回　X1Y3区出土土器	.....14
第10回　X1Y3区出土土器	.....15
第11回　X1Y3区出土土器	.....16
第12回　X1Y3区出土土器	.....17
第13回　X1Y2区・X2Y1区出土土器ほか	.....18
写真5　繩文期土器A類・B類	.....19
写真6　繩文期土器C1類	.....20
写真7　繩文期土器C2類・C3類・浅鉢	.....21
写真8　繩文前期土器D類・E類・F類・G類・H類	.....22
写真9　繩文有孔円板・萬文中無土器・茎生土器・根出器・石器	.....23

# I 遺跡の環境

## 1. 遺跡の立地（第1図）

上野A遺跡は、JR福岡駅の西方約3.2kmの、小矢部川左岸に形成された河岸段丘上にある。その範囲は、南北150m東西600mである。

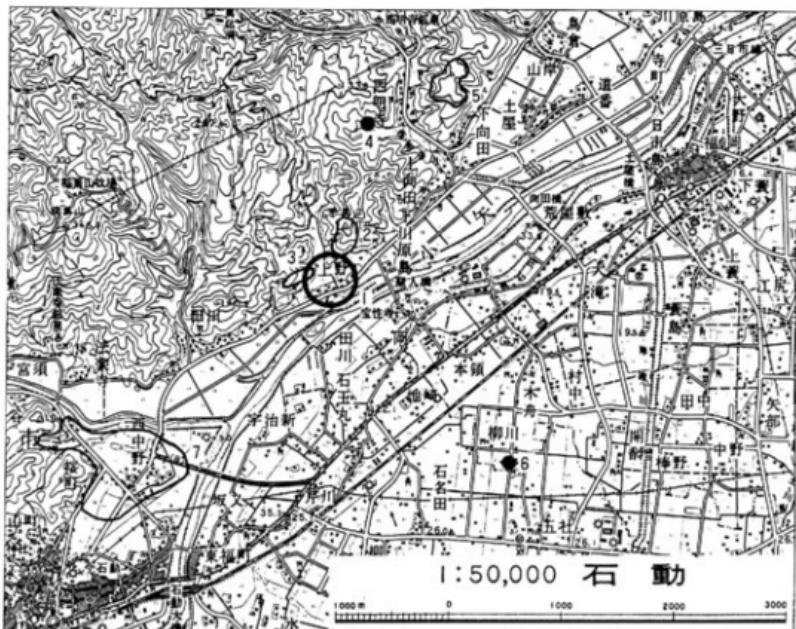
標高は約27mで、平坦な地形である。北側は標高100mほどの丘陵となっており、南側は比高差3mほどの段丘崖となっている。

## 2. 周辺の遺跡（第1図）

上野A遺跡は縄文時代（前期・中期）から弥生時代、古墳時代、平安時代に及ぶ複合遺跡である。この西南方には小矢部市桜町遺跡があり、そこでは旧石器時代から江戸時代に至るまで連続と人々の生活の跡が残されている。

北側丘陵地には、上野古墳群・下向田古墳群・上向田経塚など、古墳や塚が多い。また、西明寺には、鎌倉時代のものといわれる大きな五輪塔が2基ある。また、阿弥陀堂という地名があることから、中世の寺跡と推定されている。

南部の平野部には、天正13年の大地震で崩壊したといわれる木舟城跡（県指定）がある。



第1図 遺跡位置図 1. 上野A遺跡 2. 福岡上野古墳群 3. 上向田経塚 4. 西明寺塚  
5. 下向田古墳群 6. 木舟城跡 7. 桜町遺跡

## II 調査の概要

### 1. 調査に至るまで

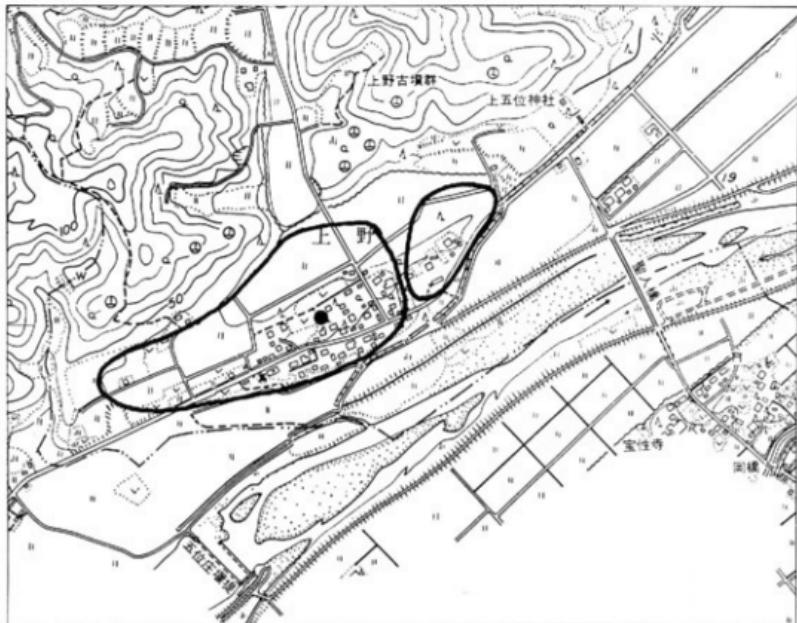
上野A遺跡は、福岡町上野字岡山・上の下に所在する遺跡として、昭和47年刊行の富山県遺跡地図に遺跡番号305番として登載されている。これまでに、縄文時代前期・中期の土器、須恵器、磨製石斧・石鎌・石匙・石錐・石鋸、菅玉などが採集されている。

発掘調査は行われたことがなく、かつて石棺をもつ古墳があったが、破壊されたという。その時須恵器と刀剣類が出土したといわれているが、その所在はあきらかでない。

平成元年1月に、当地在住の水口正氏が車庫及び農作業所を建て替えることになったため、町教育委員会と富山県埋蔵文化財センター職員が現地を調査したところ、縄文土器が散布していることがわかったので、建築前に発掘調査を行うことになった。

### 2. 発掘調査

調査は、平成元年1月18日から同21日までを行い、発掘面積は50m<sup>2</sup>である。発掘区は2m四方を1区とし、東から西をX軸、南から北をY軸とした。表土はバックホーで除去し、遺物包含層から人力で発掘した。



第2図 遺跡の範囲と調査地点 右の囲みは上野B遺跡

写真 2



調査区近景  
西より



調査区全景  
西より



調査区全景  
東より

写真 3



土層堆積状況  
東より



土器出土状況



発掘作業風景

### III 遺跡と遺物

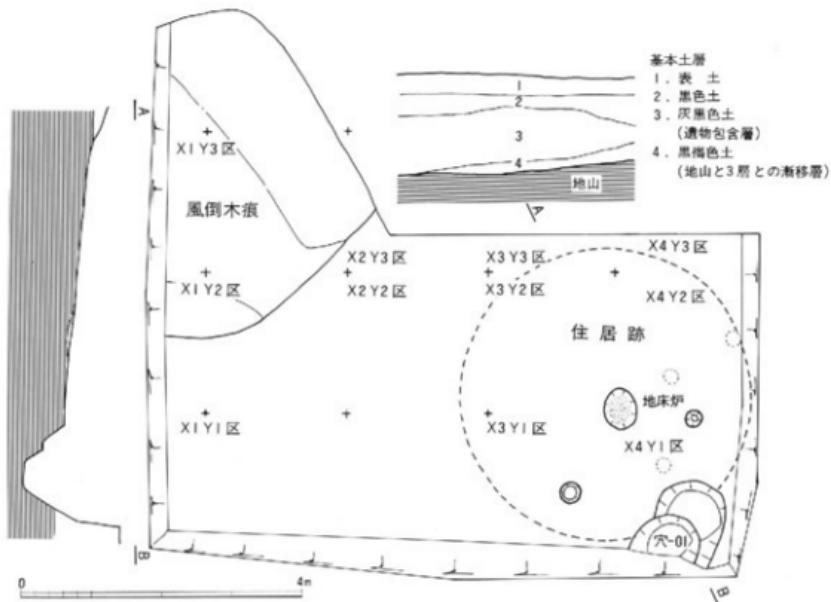
発掘された遺構は、縄文時代前期の住居跡（炉跡と貯蔵穴）1棟である。ほかに風倒木痕が1か所ある。遺物は、縄文時代前期・中期の土器・磨製石斧・くぼみ石・石錘・石匙・石槍・ナイフ状石器・石屑・炭化米・弥生時代後期の土器、平安時代の須恵器がある。遺物量は整理箱8箱である。

遺跡の堆積土層は、1層灰色土（表土）30cm、2層黒色土15~30cm、3層灰黑色土（遺物包含層）30~80cm、4層黒褐色土10~20cmで、地山は黄色土である。

#### 1. 住居跡（第3図）

調査区の西寄りに、径50cm深さ6cmの赤く焼けた地床炉がある。また、直径1m深さ50cmの穴01がある。このような穴は、住居跡に付随する貯蔵穴とみられている。

住居跡の壁面は検出できなかったが、ここに直径約4mの豊穴住居跡があったものと考えられる。柱穴とみられる穴は直径30cm深さ15~40cmのものが2か所あるだけである。床面は平坦でなく、南側に傾斜していることからみて、仮設的な上屋であったろう。住居跡の時期は、床面及び穴01出土の土器からみて、縄文時代前期の鶴ヶ森式II式期である。

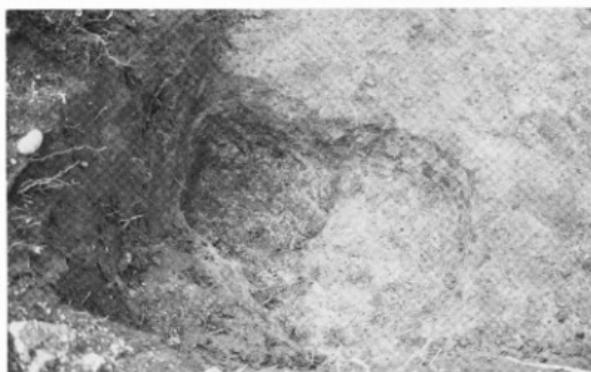


第3図 基本土層と遺構図(40分の1)

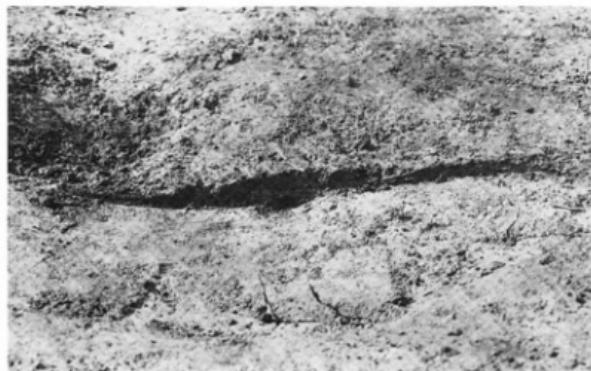
写真 4



住居路全景  
西より



穴-01  
東より



炉  
東より

## 2. 遺物

### (1) 繩文土器 (第4~9図)

前期 深鉢・浅鉢(列孔文土器)がある。深鉢は文様の特徴から8種類にわける。

**A類** 器面に細い粘土紐を貼り付ける、いわゆる隆起線のもの(1・6・20・25・37・43・44・47・48・51・109~111・113・114・116・152)。隆起線状に繩文を施紋する113などは、関東地方諸磯B式と関連するものであろう。

**B類** 器面をよこなですることによって、なでとなでの間にみみずばれ状の線ができる、いわゆる微降起線のもの(2・3・7・10~18・38・49・50・53・55・63・64)。肩下部は羽状繩文をほどこすようである(19・56)。

**C類** 器面に細い粘土紐を貼り付け、その上に半截竹管状施文具の先で爪形文をつける、いわゆる結節浮線文のもの。C類は、節の間隔が密なC1類(81~95・115・144・153・154)、間隔のあるC2類(23・24・26・28・45・54・65・67・75・96~100・153)、節が器面に直接押圧されるC3類(101・102・104~108・145)にわけられる。C1類の93は器面に三角形のえぐり込みがある。C2類の23・24・54は瘤状の隆帯が付く。C2類の28・54・67は、地文に半截竹管文があるがその他の物は無文である。C2類は関東地方の諸磯C式と関連するものであろう。

**D類** 器面に半截竹管状施文具の先で刺突し、列点文とするもの(22・39・46・66・74・79)。近畿地方北白川下層II式と関連するものであろう。

**E類** 器面に半截竹管状施文具の先を押し引くもの(8・40・68~70・118~120・122~12・6・146・147)。70のように乱雑に引くE1類と119のようにきれいなE2類にわけられる。

**F類** 器面に沈線をひくもの(117・121)。117は口唇部に刻みがある。

**G類** 繩文のもの(31・41・42・57・58・77・112・129・130・134・135)。112は口縁部に瘤が付く。

**H類** 無文のもの(29・30・32~36・52・71・76・128・131~133)。36・71のように粘土接合部をそのまま残すものがある。33・52のように口縁部の一部を内側に押さえたり瘤状にするものがある。

**底部** 外反するもの(5・61・73・136~140)と底が張るもの(21・62・72・74)がある。21は張り出し部に刻みを巡らす。

**浅鉢(列孔文土器)** 肩部に孔をめぐらせ、体部が強く屈曲するもの(9・59・60・78・127)。

**有孔円板** 土器片を直径4~6cmにまるく整形し、中央に5mmほどの孔をあけたもの(80・149~151)。紡錘車のようであるが用途は不明である。

**前期の土器について** 高堀勝喜、小島俊彰、高橋修宏、越坂一也らの研究をもとに、以上の土器群の編年的位置づけについて考えてみたい。型式区分としては、A群は蜆ヶ森I式、B群は蜆ヶ森II式、C群・E群は福浦上層式、D群は福浦下層式ということになろうか。型式差を時期差とすると、四期にわけられることになる。しかし、出土区でみると、住居跡とその検出区出土の土器群とX1 Y3区出土の土器群とに二分されるようと思われる。

他の遺跡でのあり方を見てみよう。小島や高橋は石川県中戸遺跡や富山県古沢遺跡では、無文地結節浮線文は蜆ヶ森II式と共に伴すると考えている。古沢遺跡第2号土坑では、本遺跡のA類・

B類・C2類・E類が伴うが、C1類は含まれていない。また、石川県真駒遺跡1区イルカ層では鋸歯状印刻文、半降起線文の福浦上層式に無文地上結節浮線文は伴わないという。福光町うずら山遺跡では、蜆ヶ森I式を主体とし若干の蜆ヶ森II式と本遺跡C2類を伴うが、C1類はない。そして、諸磯B式の浅鉢が伴う。

以上のことから、本遺跡の前期土器は二期に分けておきたい。1期は住居跡とその検出区出土土器で、B類を主体とするがわずかにA類を含み、C2類・D類・E1類からなるもの、2期はX1Y3区付近出土土器で、C1・C3類・E2類からなるものである。関東地方との対比では、いずれも諸磯C式となるが、その古式と新式にあてられようか。

**中期** 量も少なく、深鉢だけがある。隆起線で区画した間を三角形と四角形の刺穴で埋め、隆起線の接合部には瘤状の隆帯をつけるもの(141・142)。長野県新道式の流れを引くものである。

半裁竹管文による曲線文のあるもの(143)。口縁部を無文とし、胴部を縄文とするもの(148)がある。編年の位置づけは、南久和による上山田I式(上山田古式)である。

(参考文献) 潤川市教育委員会1978「安田古宮遺跡」、大門町教育委員会1982「小泉遺跡」、富山市教育委員会1977「古沢遺跡」、能登町教育委員会1986「真駒遺跡」、福光町教育委員会1991「うずら山遺跡」、今村啓爾1981「諸磯式 縄文文化の研究3」雄山閣

#### (2) 石器(表紙写真1・写真8)

石器は、前期土器の出土量が多いことから、前期のものと考えられる。石鏃などの小型の石器は住居跡を中心に出土している。

**磨製石斧**は蛇紋岩のもの2点がある。**くぼみ石**は6点ある。長さ8cm前後の河原石を用い、径1cmほどのくぼみが1から3ヵ所ついている。石材は砂岩、閃緑岩、片麻岩がある。**石錘**は2点ある。河原石を用いる。25gの溶結流紋岩のもの、184gの花崗岩のものがある。

**石鏃**は10点ある。長さは2cm、2.5cm、3cmの三種がある。前二類は基部がえぐれているが後類はまっすぐかやや出ている。後類は未製品であろうか。石匙形をした非対称のものもある。石材は安山岩が多いが、流紋岩とチャート質のものが各1点ある。**石槍**は安山岩のもの1点がある。長さ4.6cm幅1.6cm厚さ0.7cmである。**石匙**は安山岩とチャート質のもの2点がある。刃部の長さが4.5cm高さ3cm前後のもので、上部に紐かけ用のためかえぐりがある。**石錐**は安山岩のもの1点がある。基部は細かな剥離がなく未成品であろう。ナイフ状石器は安山岩のもの1点がある。石器はこのほかに、チップ状の石屑がたくさんあり、鉄石英の石材もある。

#### (3) 炭化栗

穴01・X4Y1区から、径1.5cmの小さいものが出土した。縄文時代前期の食料であろう。

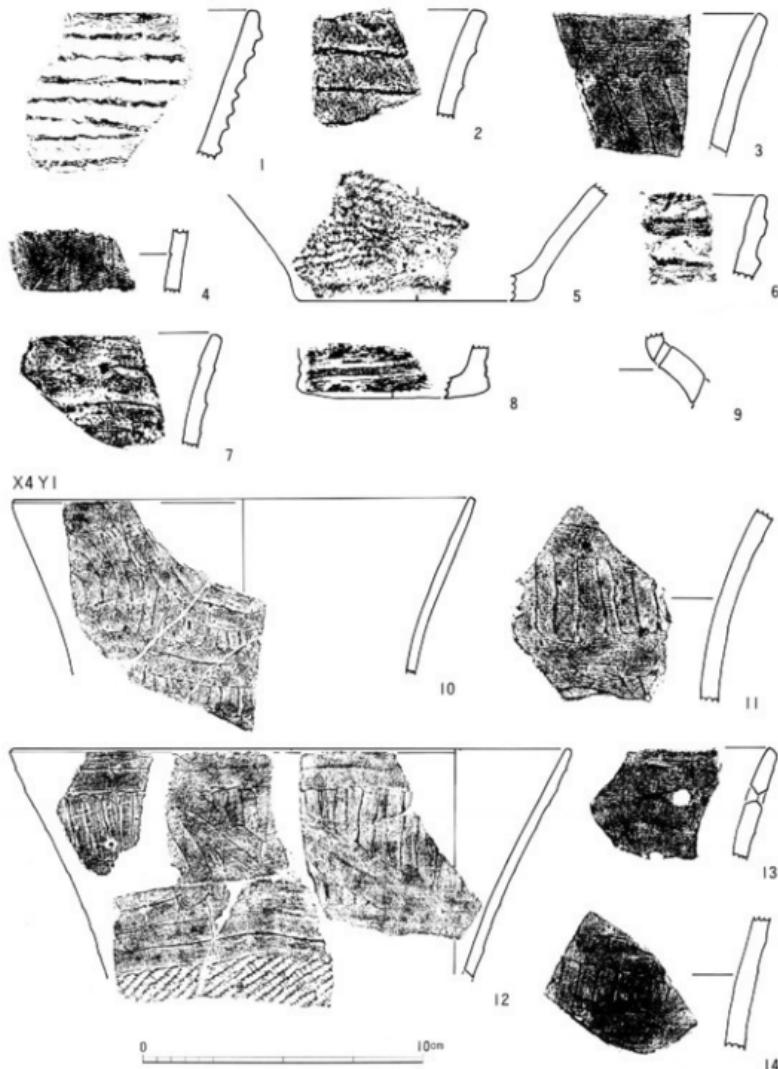
#### (4) 弥生時代(写真7・図13)

長頸壺の口縁部とみられるもの(156)が、1点だけある。後期末の月影式期にあてられよう。

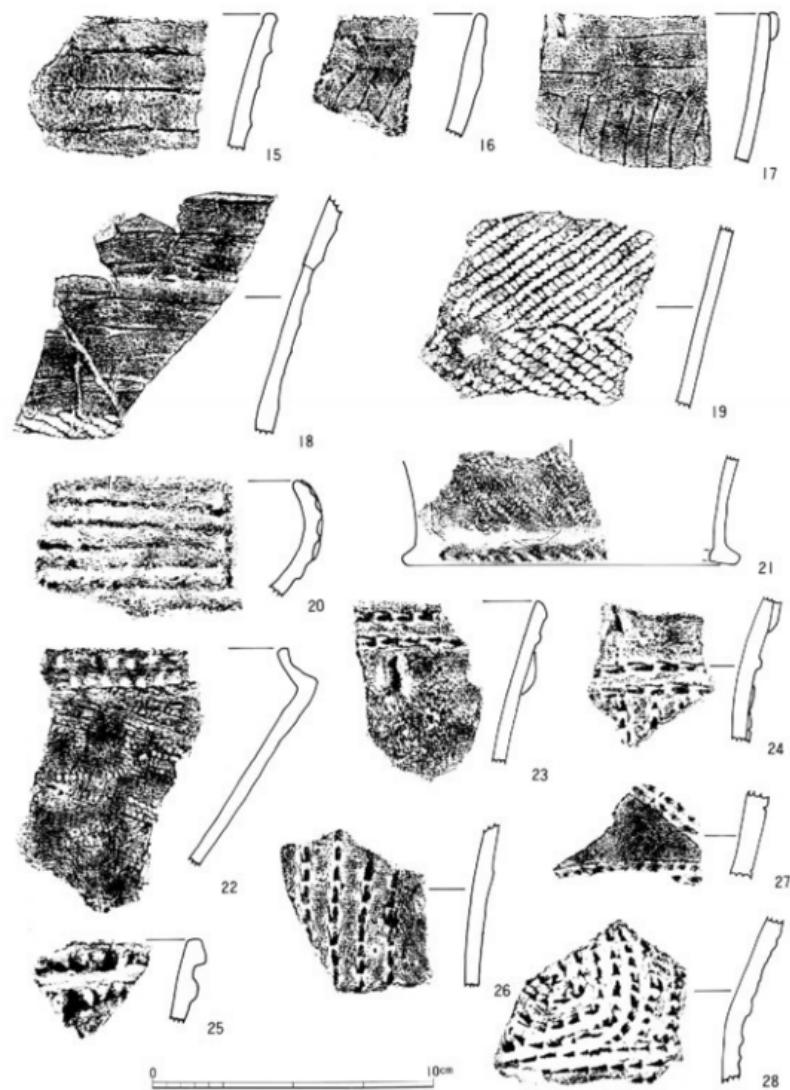
#### (5) 平安時代(写真7・図13)

須恵器の杯(157・158)・甌胴部(159・160)がある。杯の口縁部の開きぐあい、甌胴部内面の平行当て具痕から、9世紀から10世紀頃のものであろう。

穴-01. 住居跡床面

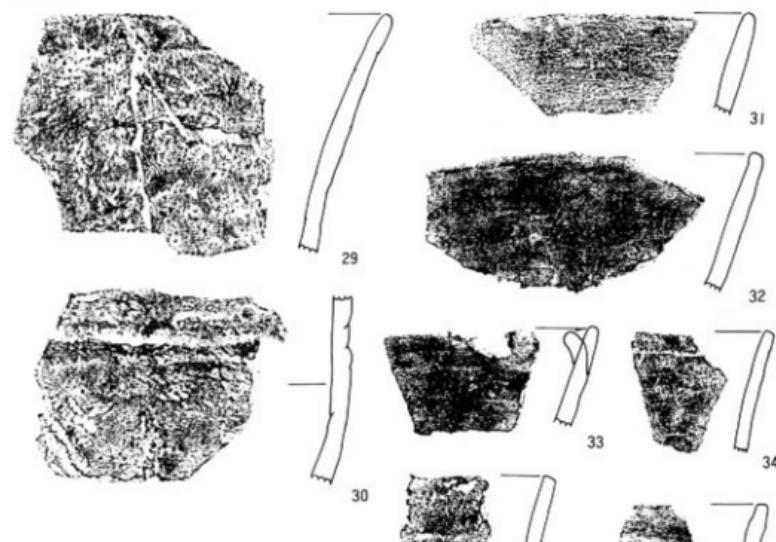


第4図 住居跡とX4 Y1区出土土器 10・12は3分の1

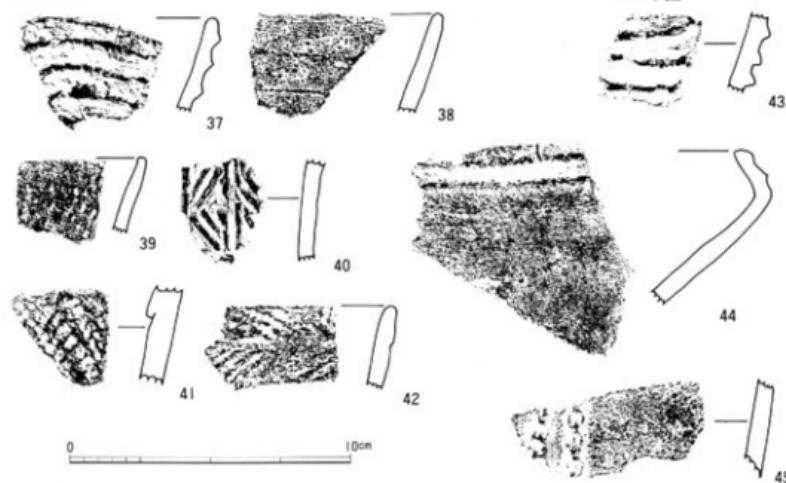


第5図 X4 Y1区出土土器

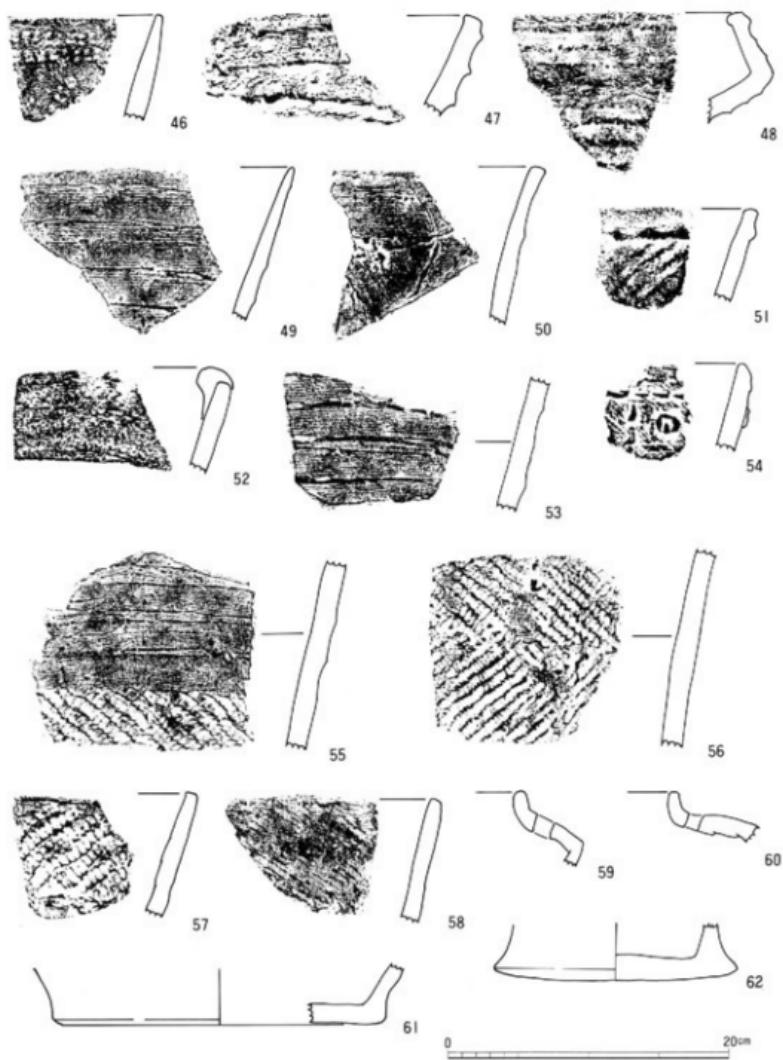
X4 Y1 区



X3 Y1 区

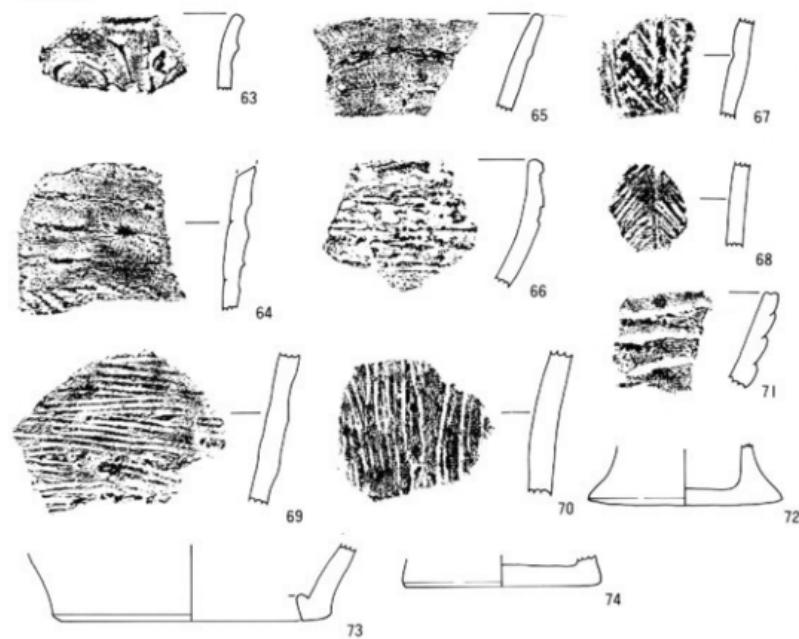


第6図 X4 Y1区・X3 Y1区・X4 Y3区出土土器

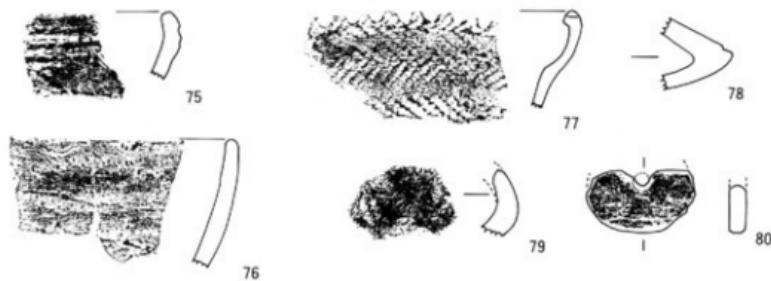


第7図 X4 Y2区出土土器

X3 Y2 区

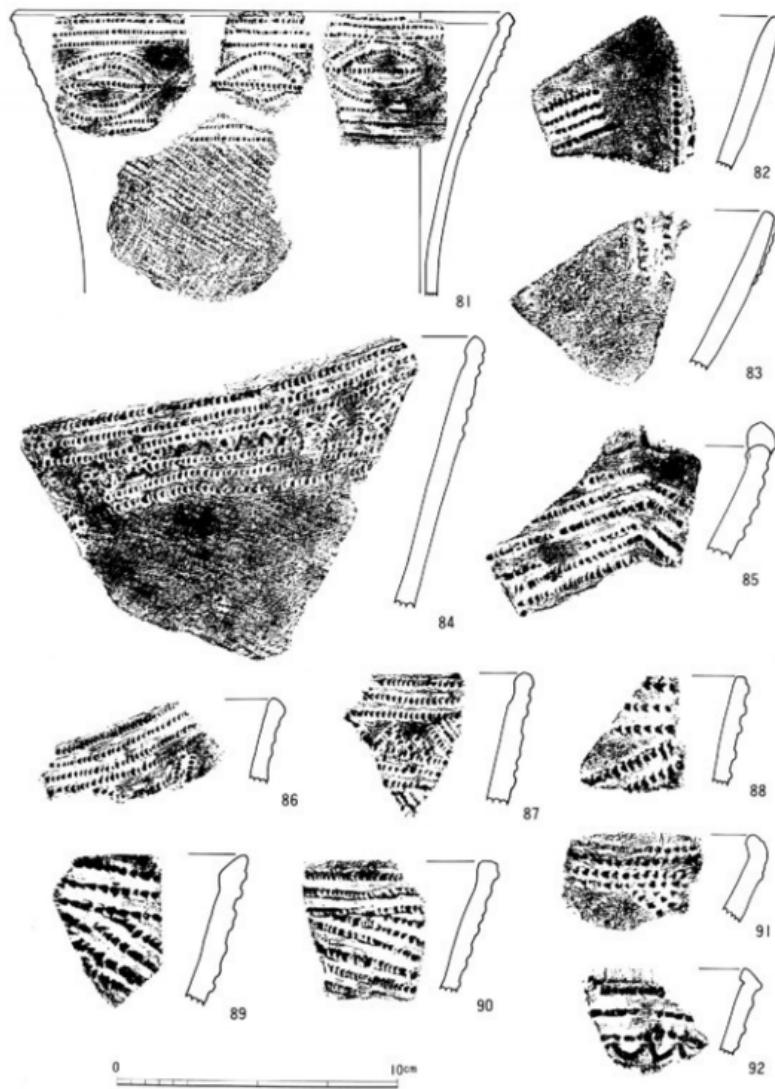


X2 Y1 区

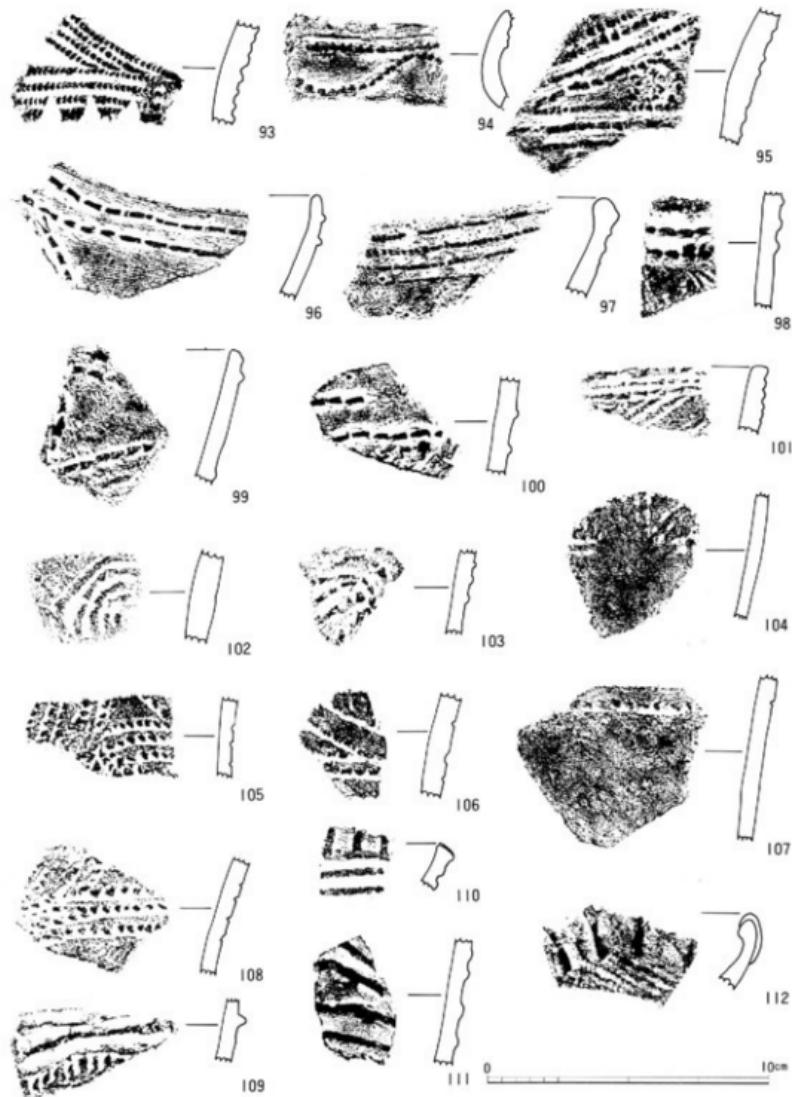


0 10cm

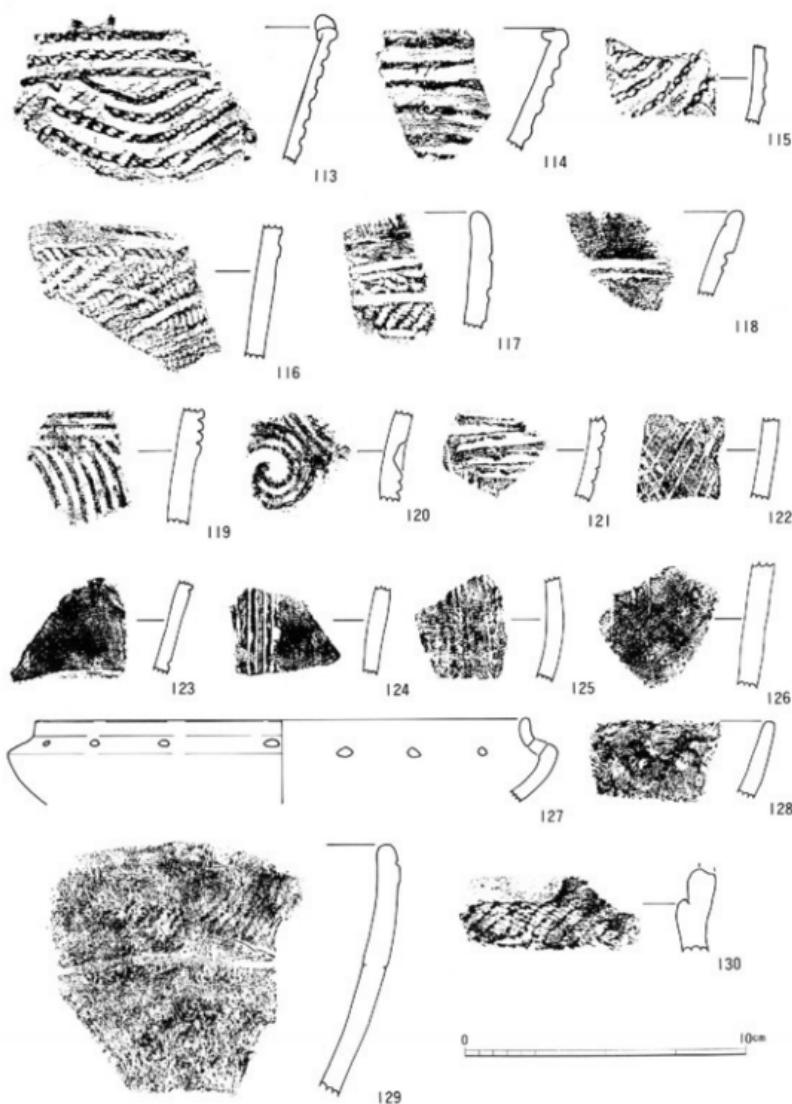
第8図 X3 X2区・X2 Y1区・X1 Y1区出土土器



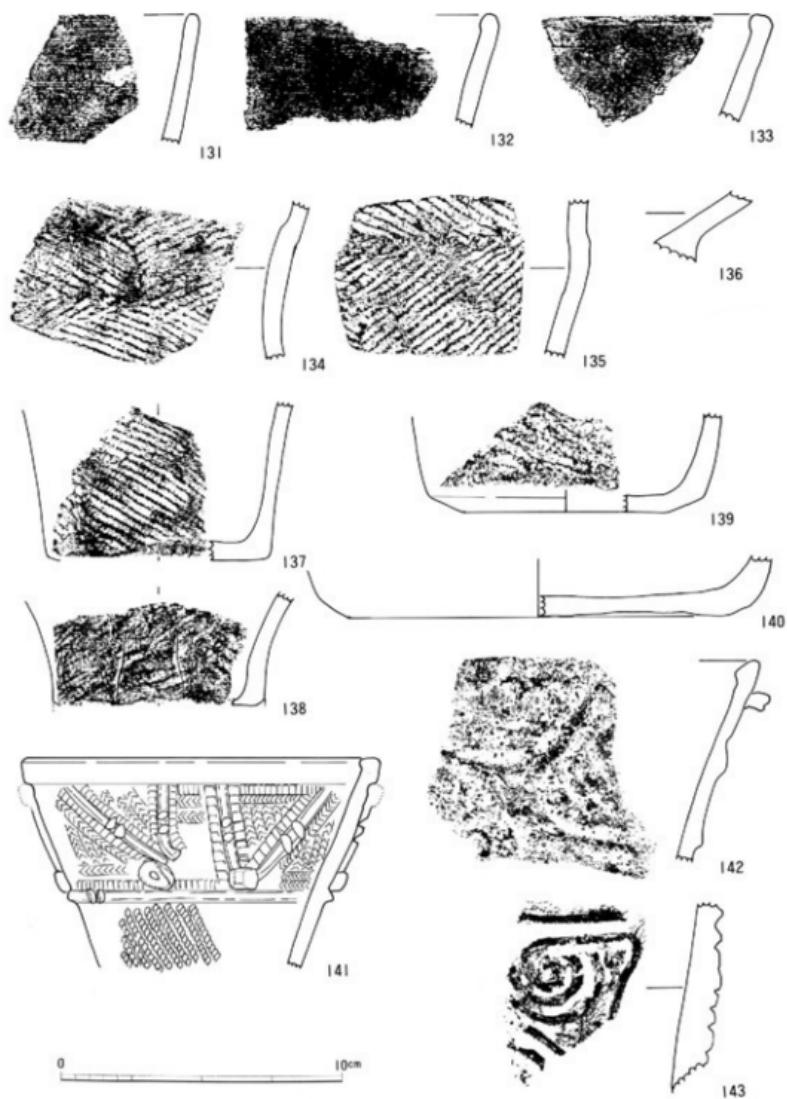
第9図 X1 Y3 区出土土器 81は3分の1



第10図 X1 Y3 区出土土器

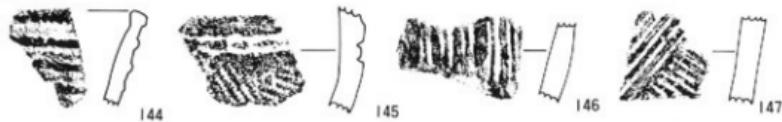


第11図 XI Y3 区出土土器 127は3分の1

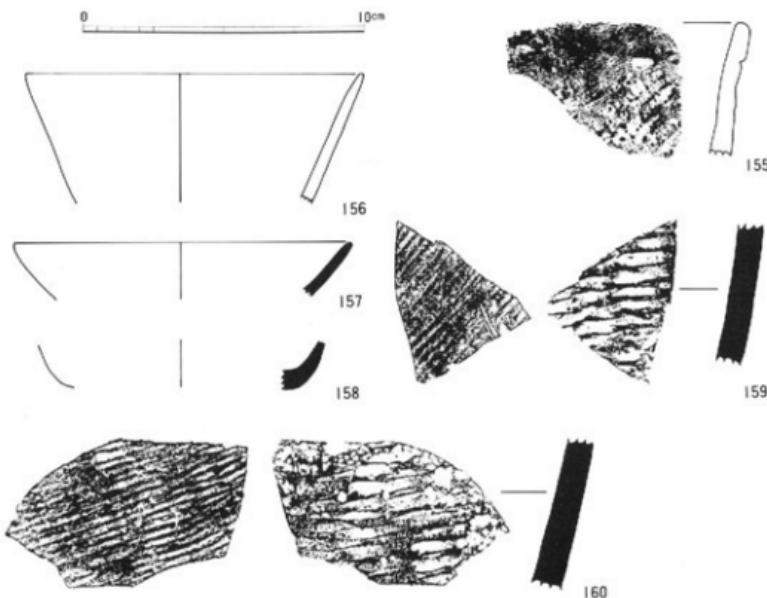
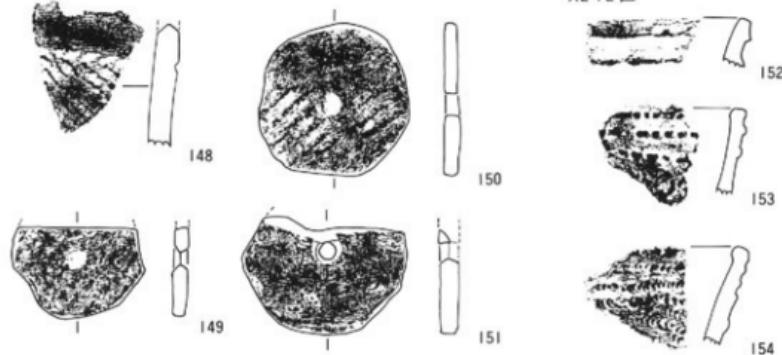


第12図 X1 Y3 区出土土器 141・142は3分の1

X1 Y2 区



X2 Y2 区



第13図 X1 Y2区・X2 Y2区出土土器ほか 156～160は弥生土器と須恵器

写真5 縄文前期の土器 A類・B類

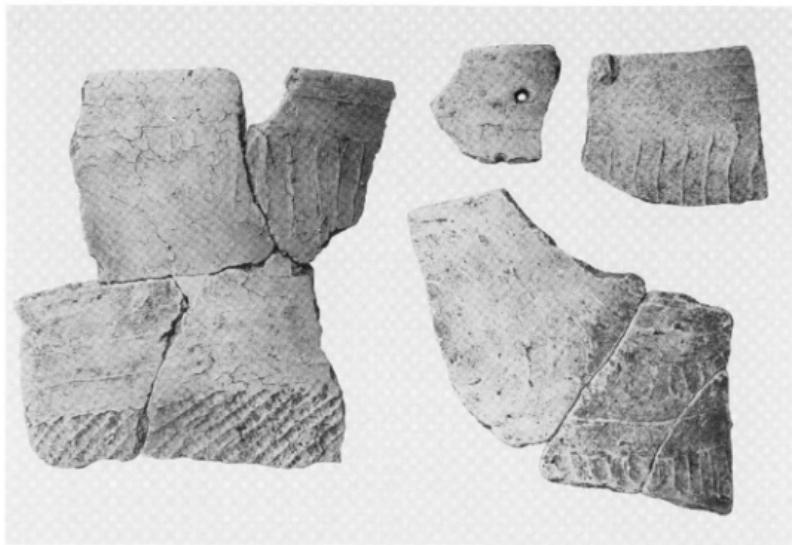


写真6 繩文前期の土器 CI類

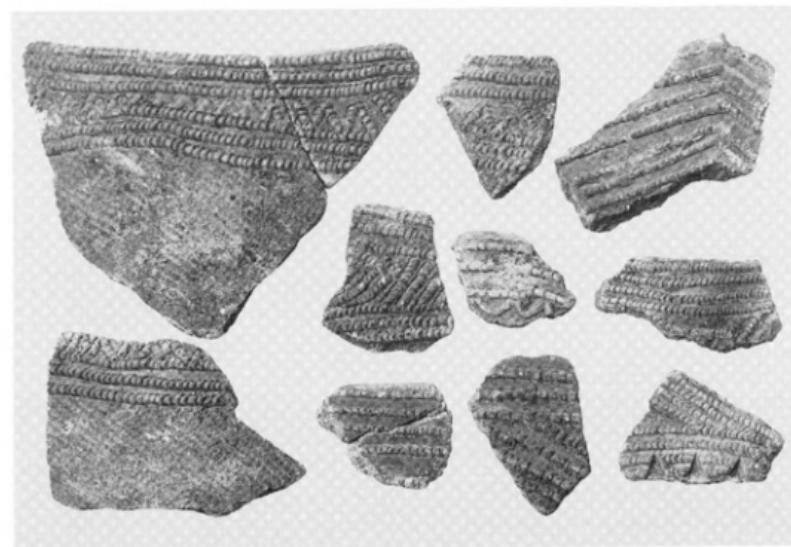


写真7 繩文前期の土器 C2類・C3類・浅鉢



写真8 繩文時代前期の土器 D類・E類・F類・G類・H類

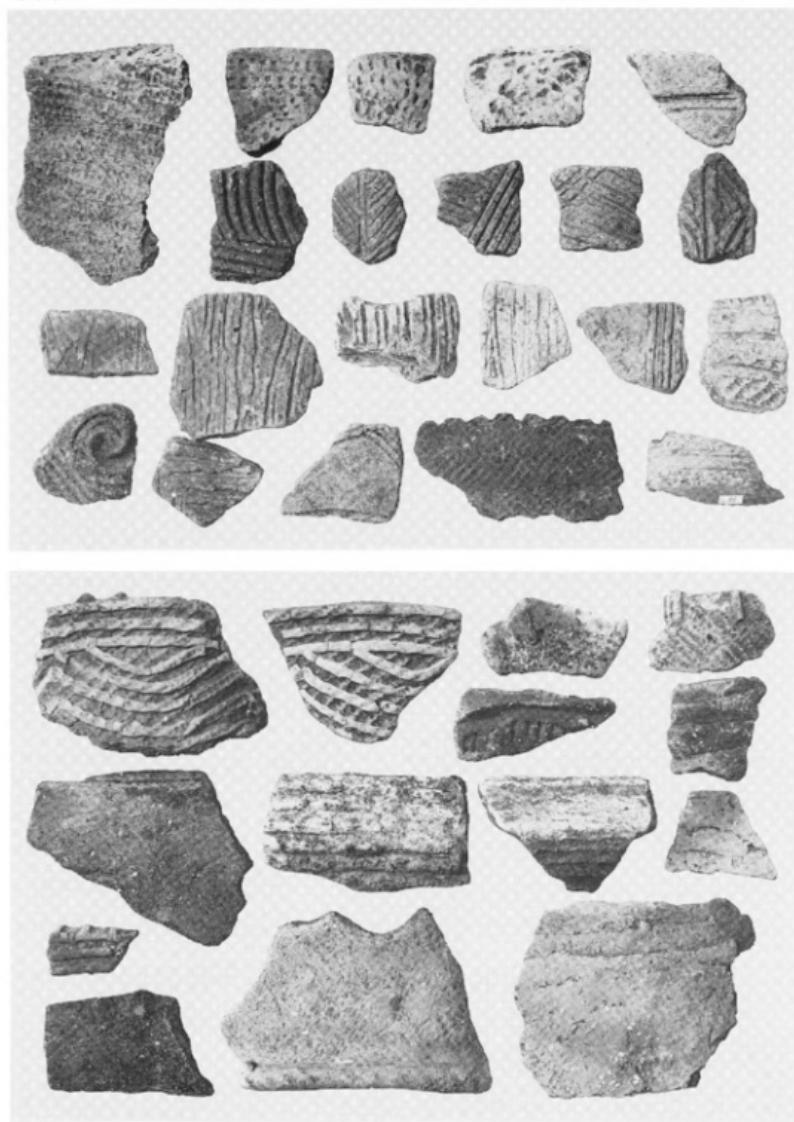
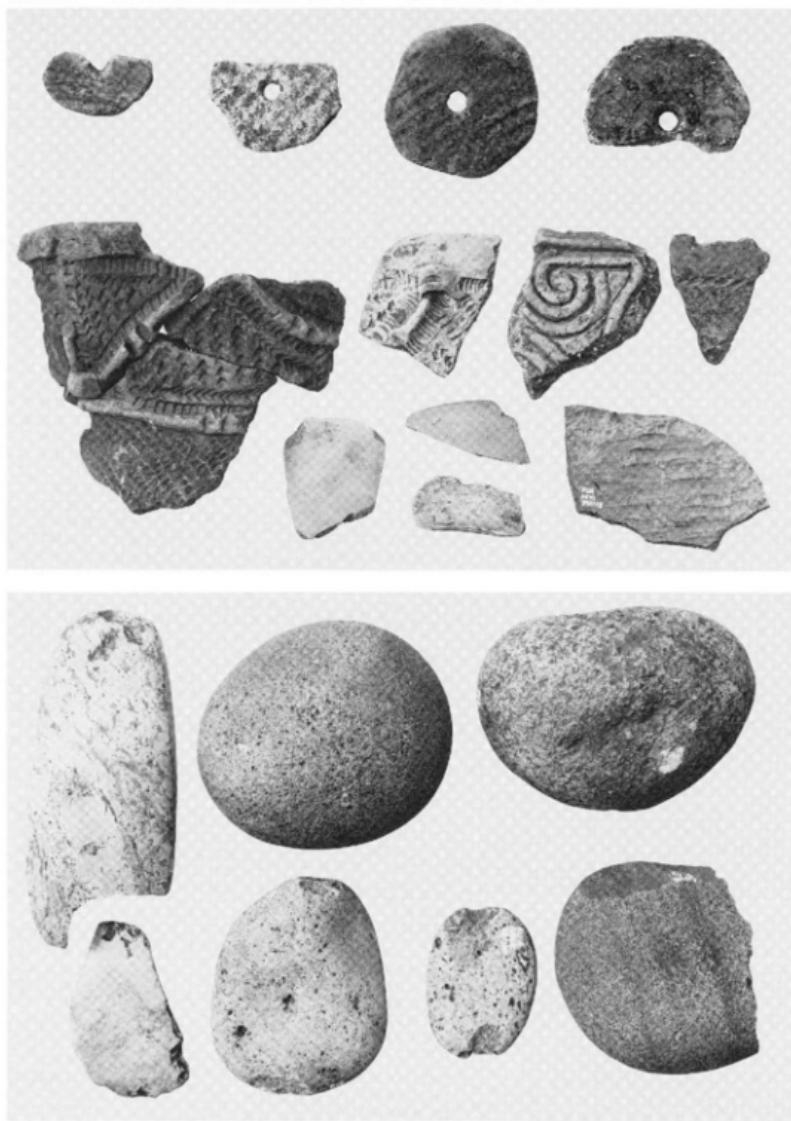


写真9 有孔円板・縄文中期土器・弥生土器・須恵器・石器



富山県

## 福岡町上野 A 遺跡

### 発掘調査概要

発行日 平成4年3月31日

発行者 福岡町教育委員会

編著者 富山県埋蔵文化財センター

印刷者 日興印刷（株）

